

諏訪中 だより

多摩市立諏訪中学校

ユネスコスクール認定校

〒206-0024

多摩市諏訪5-12-1



令和6年9月2日

第5号

自信と信頼

校長 齊木伸郎

この夏は、猛暑に加え、局地的な豪雨や大きな地震が全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしました。異常気象や温暖化の問題、また、巨大地震への備えを真剣に考える必要性を感じずにはいられませんでした。

一方、オリンピックにおける日本選手の活躍など、明るい話題もありました。連日の日本選手の活躍や世界最高峰の戦いは、胸が熱くなり、大変勇気づけられるものでした。始業式では、スケートボードの堀米選手や体操の男子団体総合の奇跡的な大逆転劇の裏にあった、「諦めない」という言葉の背景について、以下のように伝えました（一部省略して記載します）。

『堀米選手は、この3年間を振り返りこう言っています。「地獄の3年間だった。メンタル的にも身体的にもどんどん壊れていった。ここまで来るのに諦めかけたこともあった。1%の可能性しかなかった。でも自分を信じてやってきて、それが最後に実った。諦めず、悔いを残さないように滑り切れたことがうれしい」と。「自分は、これだけ努力した、練習を積んできた、その自分を信じよう、自分ならできる。」という心の支えがあったからこそその結果でした。

体操の男子団体総合も印象に残りました。東京オリンピックでは、わずか0.1点の差で金メダルを逃していました。今回のオリンピックでは、見事雪辱を果たしましたが、頼れるリーダーの存在・チームワークの強さといったことが諦めない心を支えていました。とても印象的だったのは、誰かがミスしても、「絶対諦めるな。いける、いける!」と、菅主将を中心に、お互いに声を掛け合っていたことです。絶対的なエースの橋本選手があん馬で落下してしまった時には、この声がなお一層響いていました。日本チームの、声を掛け合ったり、肩を抱え合って喜びを分かち合っている場面を見ると、いかに、お互いに自分たちを信頼し、高め合い、支えあってきたのかがわかるものでした。

このオリンピックでは、ほかにも、心が動いた瞬間が何度もありました。是非とも、その背景を理解し、自分に重ね合わせることで、今後、さまざまな場面でそれを生かしていってほしいと願っています。』

また、この夏休み、学習教室・プール指導・部活動など、いろいろな場面で子どもたちが頑張っている姿を見ることができました。HPにもその様子を掲載しています。

中でも、連日の猛暑の中、部活動で頑張っている姿が何度も目に入ってきました。特に、2年生が中心となって部全体を引っ張って活動する様子を見て、3年生の引退からまだわずかな時間しかたっていないにもかかわらず、「これからの諏訪中の中心は自分たちだ」という自覚とともに、確かな自信が感じられました。

2学期のスタートとともに、いよいよ日々の生活・学習活動・委員会など、部活動以外での取り組みが始まっていきます。2年生を中心に、諏訪中をより良い方向へ進めていってくれることを願っています。もちろん、委員会活動や部活動によっては、3年生にも、まだまだ頼らなければならない場面もあるでしょう。そして、音楽会では、運動会と同様に、3年生が大きな存在感を示してくれることを期待しています。



8月28日に行われた引き渡し訓練の様子